

◆ 福井県立恐竜博物館

ハコビ家

夏休み、家族旅行で福井県勝山市の恐竜博物館に行きました。福井県では1989年から発掘調査をはじめ、フライラプトルやフクイサウルスなど多くの恐竜の骨を採取、発掘現場からは恐竜の卵殻や幼体の骨を発見。豊富な恐竜の群れが生きていたことが分かり、福井県立恐竜博物館は、国内最大の恐竜の博物館として、有名建築家黒川紀章氏の設計で2000年7月に開館しました。館内は、エントランスから真っ直ぐ地下に続く長いエスカレーターが恐竜のいる時代へ運ぶイメージが浮かぶ。銀色卵の建物外観のユニークさと無駄のない平面計画に感動します。

映画ジュラシックパークから最近ではアニメにまで恐竜は人気があります。実は私は中学時代まで化石少年でした。化石採取は大変な仕事です。山登りに重いハンマーを持って出掛け、帰りは化石をリュックに追加して帰るのです。化石発掘は始めると大物が見つかるまで発掘を続けます。

化石は古代の生き物が石になっているのが魅力です。子供のときから宝石より化石が大好きで、古代の生き物を調べ、暮らしている環境を想像することが化石の面白さとなっています。この恐竜博物館では、まだ、発掘が続いていて、開館当時の恐竜のイメージ画が変わっているのにも驚きます。

この施設を活用するには、運営目的に持続性があり、人々の興味や関心に答えられることが必要です。今回の展示を協力された世界の恐竜博物館がアジアに多いことでも興味はさらに湧きます。博物館の設計を考えるときは、こうした世界とのつながりも建物の運営イメージにも影響を与えていると思います。



卵形の外観



卵の中の展示空間



世界の恐竜博物館



地下に続くエスカレーター

「住みあるカフェ」

～カフェのマスターとお客さんの様な関係で、
住まいづくりについて語り合いたいと考えています～

仕事のお手伝いで五衛門風呂に入ってきた。仕事は、工事後の片付けである。工事が終り、工務店がお金をもらって倒産したのだ。片付かない現場の建築主から設計者に相談がきたのである。家造りは大変な仕事だと痛感する。

知り合い設計者から私に声がかかり、すぐに状況が理解できた。今回は京都の山中の古民家で楽しそうな設計なのよかった。私の事務所のリフォームのとき、アーキチャメンバーに手伝ってもらったことも片付けに行く動機となった。家造りは造る前からできた後も気軽に集まって楽しめることも大切だと思うのだ。



◆ 鉄筋コンクリート製の貯金箱を親子で作る

松村 泰徳

夏休みの出来事ですが、筆者の息子（小2）が工作の宿題のことで相談にきました。工作のお題は貯金箱。小学生の工作では定番中の定番ですが、筆者が子供の頃に作ったものといえば、せいぜい菓子缶をそのまま使い表面に装飾を施したものや、木板で箱組みしたもの（これも定番中の定番！）でした。親子二代でそれだけは避けたいとの思いに駆られ、当の本人以上に良い案がないか頭を悩ませることとなりました。

仕事柄、建築の要素を取り入れ、しかも子供が普段あまり扱わない材料を使いたいと考え、鉄筋コンクリート製の貯金箱を作ろうと息子に提案！困惑気味の表情の息子をよそに、助言しながら設計図を描かせ、材料を調達（セメント・水・骨材・鉄筋）しました。製作に入るとオヤジ（筆者）のげきが飛ぶ中（いったい誰の作品なのでしょうか！？）、それなりに楽しそうに作業をしてくれました。数日間養生した後、型枠を取り外し完成しました！

建築においてコンクリート打ち放し仕上げは、独特の存在感をかもし出しますが、貯金箱においても近いものが感じられました。貯金箱を作り終わって感じたことは、作品が小さくても、構想から始まり、作るプロセスは実際の建築と変わらないこと。息子には貴重な体験をさせることが出来たと感じています。

喜びに浸るも、”貯金箱が満タンになったらどうやってお金を取り出すの？”と、息子からもっともな質問を受けましたが、うまい返答が浮かばず”まずは貯金箱を満タンにしてごらん！”と思わず時間稼ぎをしたオヤジなのでした。



1: シンプルな形状にしたが、いろいろな形に挑戦しても面白いのでは！



2: 作品が小さいため、鉄筋は焼肉用の金網を代用して組み上げました。
3: 内部が空洞になる様に牛乳パックを挿入し、投入口も忘れずに・・・
4: コンクリートを流し込み、隅々まで行きわたる様、棒で突いて充填させます。

◆ 編集後記

井戸田 精一 井戸田精一アトリエ

E-mail: ateleir@gaia.eonet.ne.jp
URL: <http://www.eonet.ne.jp/~ateleir>

今年の夏は、本当暑かったですね。この夏は、水彩画教室に参加しました。来る11月17日～20日に東大阪美術館にて絵画展「夢をかたちに展」に水彩画3点を出品します。お時間がございましたら、足を運んで頂ければ幸いです。（ペンネーム：ハコビ家）

辻 祐司 辻 建築設計室

E-mail: tsujiken-tenma1007@hop.ocn.ne.jp

先日、我が家念願の畳の表替えを挙行致しました。昔であれば畳の表替えも一苦労だったのですが、最近では畳屋さんが当日家具を移動してくれ、畳も持って帰って当日のうちに表替えが完了します。これには驚きと寂しさを感じてしまいます。しかし、新しい畳表は、イ草の香りが新鮮でまるで新築の家にいるようです。（そんな事を感じるのは、未だ家族全員が畳で寝ている我が家ぐらいなものですかねえ。。。）

橋爪 恒平 atelier nest
-アトリエネスト-

E-mail: atelier_nest@ab.auone-net.jp

先日、所用で天王寺へ久しぶりに出掛けたのですが、あちらこちらで建物の建て替え工事が行なわれており、どこへ来たのかと少し戸惑いました。全て完成する頃には、街並みが大きく変わっていることでしょう。個人的には、近鉄前交差点の新たに架け替えられる歩道橋が楽しみです。

松村 泰徳 松村泰徳建築事務所

E-mail: contact@ym-arc.jp
URL: <http://www.ym-arc.jp>

先日、限界耐力計算による耐震診断・改修法の講習に参加しました。この計算法により伝統的木造建築に対応した耐震設計が可能となります。日本において日本建築の存続が難しい時代が続いていますが、改修することにより一つでも多くの日本建築を次の世代に残していければいいと考えています。

山田 慎輔 山田慎輔建築設計室

E-mail: ya-mada1120@eco.ocn.ne.jp

ようやく暑い夏も終わり、過ごしやすくなりました。年々夏の暑さが体に応える年齢になってしまいました。今年こそはジム通いを始めようと思います。

「アーキテクトキャラバン」は、建築に携わる有志が集まり、その活動内容や住まいに関する情報などを、広く皆様へお届けできる場として、年4回季刊誌形式にて発行しております。また、住まいの相談会、勉強会なども企画して参ります。ご意見・ご感想・相談等御座いましたら、右記事務局までご連絡頂きます様、宜しくお願い致します。

編集・発行 [アーキテクトキャラバン]

事務局／松村泰徳建築事務所
奈良県葛城市北花内261-5
TEL : 0745-69-5938
FAX : 0745-60-6524
E-mail: contact@ym-arc.jp
URL : <http://www.ym-arc.jp>

Copy right 2010 Architect Caravan All rights reserved